2022 年 7 月

□■バイク輸出量世界 4 位の国、タイ■□
～世界 3 位の日本に迫る勢いで成長～

ETRAN

タイの電動バイクのスタートアップ「ETRAN」

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、グラフです。

タイは、自動車生産拠点が多い国というだけではなく、世界有数のバイク生産地としてもよく知られていて、皆さんのご存じの日系メーカーであるホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキなどの生産拠点でもあります。タイに出張・旅行の経験がある方はタイの都会・ローカルエリアを問わずにバイクが多い国だというイメージを持つ方が多いかと思います。バイクが普及しているタイにはどのようなビジネス・経済の背景があるかを語りたいと思います。

2021 年はタイのバイク製造の歴史において生産量が最も多い年でした。商業省次官室のレポートによると、2021 年のタイのバイク・バイクの部品の輸出額は 115 億バーツで、2020 年の輸出額 79 億バーツと比べると 45%ほど伸びました。

2020 年の「World Top Exports」のレポートを見るとタイは世界第 4 位のバイク輸出国（1 位：中国、2 位：ドイツ、3 位：日本）になっています。世界的に見て、バイク・バイク部品の輸出におけるタイのシェアは 6.5%で、第 3 位の日本の 6.9%に近い数字です。上記は 2020 年のレポートの数字ですので、毎年成長しているタイのバイク製造輸出業界は、今年日本を超えて、世界のバイク・バイク部品の輸出 3 位になるかもしれません。

参考①「Motorcycle Exports by Country」：
https://www.worldstopexports.com/motorcycles-exports-country/?fbclid=IwAR2tQHHqmcnd5OC5_WK7V6y7lPUzFuKF6NOR9xw795-2SZxHUyUecmnKDbo
参考②「タイのバイク・バイク部品の輸出額の動向（商業省次官室のレポート）」：
https://tradereport.moc.go.th

■タイでバイク生産をするメーカー

自動車より安価、一年中暖かい気候、ひどい渋滞でも移動可能な交通手段であることなどから、タイだけではなく、ベトナム、インドネシア、マレーシアなど、ASEAN の国ではバイクがかなり普及し、主な交通手段になっています。タイだけでも、2,200 万台のバイクが登録されており、人口の 3 割に匹敵します。タイ人家庭のほとんどがバイクを 1 台保有しているといっても過言ではありません。

そして豊かな製造業のサプライチェーンがあり確かな技術があることはもちろん、ASEAN エリアの中央にあるタイは、他の ASEAN 諸国に輸出するための輸送面でも地の利があり、ベストな場所と考えられます。そのため、ホンダ、ヤマハ、スズキ、カワサキなど、日本のバイクメーカーがタイにバイクの生産拠点を作りました。

また、タイでは従来 100～125cc の小型のバイクを中心に生産されていましたが、その生産技術と豊かなサプライチェーンがあるため、2012 年から、BMW、ハーレーダビッドソン、トライアンフ、ドゥカティ、ベネリ、など、248cc 以上の大型バイクのメーカーがタイを生産拠点とし、工場を作り始めまし

た。そのため、タイから輸出するバイクの割合は、小型バイクだけではなく大型バイクも多くなってきました。

タイにあるバイクメーカーのリスト

No	メーカー名	国	URL
1	BMW Manufacturing (Thailand)	ドイツ	https://www.bmwgroup-werke.com/rayong/en.html
2	Ducati Motor (Thailand)	イタリア	https://www.ducati.com/th/th/home
3	Kawasaki Motor Enterprise (Thailand)	日本	https://www.kawasaki.co.th
4	Thai Honda Manufacturing	日本	https://www.thaihonda.co.th/honda/
5	Thai Suzuki Motor	日本	https://www.suzuki.co.th
6	Thai Yamaha Motor	日本	https://www.yamaha-motor.co.th
7	Triumph Motorcycle Thailand	イギリス	https://www.triumphmotorcycles.co.th
8	Harley-Davidson (Thailand)	米国	https://www.harley-davidson.com/th/th/index.html
9	GP MOTOR (THAILAND)	タイ	https://gpxthailand.com/
10	Deco Green Energy	タイ	https://decogreenenergy.com/
11	SWAG EV	シンガポール	http://www.swagev.com
12	ETRAN (Thailand)	タイ	https://www.etrangroup.com
13	SIAM GREEN ENERGY ELECTRIC	不明	不明
14	Edison Motor	タイ	https://rideedison.com
15	POWER STALIAN	タイ	https://stallionsmotor.com

出典：https://data.thaiauto.or.th/auto/auto-manufacturer/motorbike-value-chain/thai-motorbike-manufacturer.html

■タイのバイク・バイク部品の輸出先

2021 年のタイのバイク生産量は 178 万台で、その中の 75%は国内市場向け、残りの 25%は海外市場向けです。輸出先は下記の表をご確認ください。

タイからのバイクの輸出先

ランキング	輸出先	輸出額（バーツ）	割合
1 位	中国	154 億 700 万	18%
2 位	米国	127 億 2,500 万	15%
3 位	ベルギー	117 億 2,900 万	14%
4 位	イギリス	112 億 3,300 万	13%
5 位	日本	86 億 2,600 万	10%

出典：https://tradereport.moc.go.th

バイク本体以外にも、タイはバイク部品を製造して世界に輸出しています。輸出額は 305 億バーツほどです。輸出先はバイク本体の輸出先と違って、ASEAN の国が多いです。

タイからのバイク部品の輸出先

ランキング	輸出先	輸出額（バーツ）	割合
1 位	カンボジア	51 億 2,900 万	17%
2 位	日本	46 億 9,500 万	15%
3 位	ブラジル	38 億 500 万	12%
4 位	インドネシア	25 億 7,100 万	8%
5 位	ベトナム	15 億 8,600 万	5%

出典：https://tradereport.moc.go.th

※バイク部品の主な輸出先は日本・ブラジル・ベトナム・インドネシアなど、バイク生産拠点のある国ですが、カンボジアには修理用の部品として輸出しています。

上記の表を見ると ASEAN の国はタイのバイク部品の主な輸出先であり、輸出額の 4 割を占めています。

タイのローカルバイクメーカー・バイク製造関連の会社の例

輸出先	商品類	URL
GP MOTOR (THAILAND)	バイクメーカー	https://gpxthailand.com/
THAI STANLEY ELECTRIC	自動車・バイク用のライト	http://www.thaistanley.com
Eason & Co	自動車塗装用塗料	http://www.easonplc.com
P.C.S. Machine Group	大型のバイク部品	https://www.pcsgh.com/en/home
ND Rubber	バイク用のタイヤ	https://www.ndrubber.co.th
Hwa Fong Rubber (Thailand)	バイク用のタイヤ	https://www.duro.co.th/th

参考：https://www.longtunman.com/36554

■最後に

ASEAN においてインドネシアとベトナムは近年の経済の急成長でバイクの需要が非常に高くなってきました。その一方、それらの国の人件費はタイよりかなり低く、人口も多いため、各バイクメーカーがインドネシアとベトナムに新たなバイク製造拠点をつくり、タイから生産を移す可能性があるとタイの政府は考えています。もしそのようなことが本当に起きたらタイ経済には大きな打撃となり、脅威です。

その中で今後新たに活路を見出せるマーケットは EV バイクです。自動車業界と同じく、バイク業界でも、環境にやさしい「EV」のトレンドも進んでいます。在タイの日本バイクメーカーも「電動バイク」に力を入れてきた一方で、「ETRAN」など、タイ自国ブランドの電動バイクも登場してきました。電動バイクは今までのエンジンのバイクより、部品が少なくなるため、バイク部品の会社の売上に影響があるかもしれませんが、まだプレイヤーが少ない電池・電動関連部品製造業へのシフトなど、環境の変化に合わせて対応できれば、ビジネスチャンスに変えることができるかもしれません。

※ETRAN：タイの電動バイクのスタートアップ：https://www.etrangroup.com

参考④：
https://www.thansettakij.com/motor/511334?fbclid=IwAR1n7E64ajKyxtyMqbLig1NOOFtlMtoXiIYgQwF9RkoMFz7YbvvKlkLHaSU

参考⑤：https://www.longtunman.com/36554

参考⑥：https://www.krungsri.com/th/research/industry/industry-outlook/Hi-tech-Industries/Motorcycles/IO/io-motorcycles-20

2022 年 7 月

□■Manufacturing EXPO2022 レポート ■□
～タイ経営者の新規事業に対する意欲～

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィス神谷です。

タイは 6 月以降入国に関する規制緩和も進み、6 月 23 日にはマスク着用義務（それまではマスクを着用していなかった場合、罰金などの罰則規定がありました）もなくなったため、大小問わず展示会などのイベントは順調に開催されています。

会場内の様子

最近では 6 月 22 日―25 日の 4 日間、マニュファクチャリングエキスポがバンコクの東側にある大規模展示場 BITEC で 2 年ぶりに開催されました。4 日間で来場者数は 58,000 人、30 以上の国・地域から 1000 社余りが出展。コロナ直前の 2019 年の開催規模に比べれば半減ですが、今年のテーマ「パワーアップ」のもとに、ロジステック、オートパーツ製造、金型、アッセンブリー＆オートメーションなどに関する多彩な産業の先端技術が集まりました。

東洋紡の電動バイク試作品

日本の三菱電機オートメーション、リクシル、東洋紡など大手企業のブースも目立ちましたが、島根県に縁のあるところでは、出雲市の株式会社研電社と合弁会社 C.C.KENDENSHA Co.,Ltd. をタイ・チャチュンサオ県（バンコク東側にある県）

スリットセーバーの案内をするブンラート社長

に 2015 年に設立した C.C.AUTOPART Co.,Ltd.も大型ブースを出展していました。

C.C.AUTOPART Co.,Ltd.のブースではブンラート社長自ら㈱研電社の製品スリットセーバーの機能を来場者に紹介していました。スリットセーバーは固液分離装置で、一般的に工場排水処理・畜産施設汚泥処理、そして産業排水処理時のし渣除去・汚泥濃縮で用いられる設備です。以前もこのオフィスだよりでレポートしましたが、タイの河川の汚れは深刻な状況で、その一因となる産業排水に対しては厳しい規制も課せられていますが、運用実態が伴っていないのが実情です。スリットセーバーの導入によって、この問題を解決する一歩になると考えられます。

またブンラート社長は引き続きタイにない日本の技術・製品をタイで拡販する意欲が旺盛で、コロナ禍の間も新たな製品を探し出し、下記写真にあるギアやクランプなどの輸入販売を始めました。タイ製造業の中小企業はアジア通貨危機を経て、一つの分野に依存するのではなく、複数の産業分野で多角的に経営を行い、環境変化に対応できる経営を目指している方にお会いすることが多いのですが、ブンラート社長もまさにそのお一人です。「日本の大企業と数千万バーツの投資を一緒にするのはリスクが高い。それよりも小さな投資を日本の中小企業と行い、タイの市場で拡大していける芽をいくつも育てたい。」「まずは輸入販売から始めてマーケットの手ごたえがあったら、タイで生産してコストダウンすることを一緒に考える方がいい。」とおっしゃっていました。もちろん前提となるのは「今後タイのマーケットで求められるとタイ人経営者が感じるもの」ですが、まだ見ぬ技術・製品も多いので、見てみなければ判断できない面もあり、オンラインでもよいので一度タイの経営者の方々と商談ではなく情報交換をしていただくところから始めることをお勧めします。

□■ 今、タイ人の「インド」への興味が急上昇！ ■□

バンコクのインド人街におけるインドの服やアクセサリーのお店の様子
出典：https://www.springnews.co.th/photo-story/824638

こんにちは。島根・ビジネスサポート・オフィスのタイ人スタッフ、ニンです。

海外における韓国ブームや日本ブームは多くの方が聞いたことがあると思います。韓国と日本の音楽や、食事、文化などは、かなり前からずっと人気があります。

韓国や日本はタイでも非常に人気がありますが、今タイではインドブームが起きていて、インドに関するモノやコトも流行っています。そこで、今回はなぜタイでインドブームなのか、人気の理由は何かをお話したいと思います。

「タイでのインド人気が高まってきたきっかけ」

今、タイでインドが人気になってきた理由は、ネットフリックス（Netflix）で放送していた「ガングーバーイー・カティアワーリー（Ganggubai Kathiawadi）」というインドの映画がきっかけです。

「ガングーバーイー・カティアワーリー」は、日本でいう昔の花街でリーダーになった一人の女性の伝記映画です。

2022 年 7 月

（あらすじ）

主人公である「ガングーバーイー」は、俳優になる夢を持っていたため、親から逃げましたが、一緒に逃げた恋人にだまされて遊郭に売られてしまいました。彼女は店から逃げることも実家に戻ることもできなかったため、夢を諦めました。そこで働く中、彼女は自分たちに対して差別的な社会の過酷な環境から仲間を守ったため、認められて花街でリーダーになりました。

「ガングーバーイー・カティアワーリー」の映画はインドの俳優の素晴らしい演技が見られるのはもちろん、歌や踊り、衣装などインドの文化を楽しむこともできます。多くのタイ人がインドに興味をもつ印象的なシーンは、ガングーバーイーがインドの伝統民族衣装である白いサリーを選ぶシーンだと思います。このシーンではそれぞれの種類のサリーの白さには深い意味があり、色々な物事と比較され、インド人のサリー着用に関する文化を、タイ人が理解することができました。

また伝記映画なので描かれていることは事実に基づいていますが、ほとんどのタイ人は過去にインドでこんなことが起きていた事実は知らなかったため、これもよりインドに興味がわいてきた理由の一つだと思います。且つ、白いサリーを着た時に「ガングーバーイー」を演じる女優の美しい姿を見れば見るほど、インドの民族衣装の魅力が増しました。

この影響のためか、最近サリーなどインドの民族衣装を着て色々な活動をしているタイ人の姿がよく見られるようになりました。

お客さんを惹きつけるためにインドの民族衣装を着ている金行(ゴールドショップ)のオーナーさん

出典：https://www.newtv.co.th/news/99918

インドの衣装以外に、インド料理にも多くのタイ人に非常に関心を持ちました。偏見を持たずに心を開いてインド料理を食べてみたいと思った人が多いようです。最近のバンコクのインド人街パフラットでは、インド料理のお店に座ったり、インドの服やアクセサリーのお店に入ったりするタイ人の姿は、以前より多くなったようです。

バンコクのインド人街におけるインド料理のお店の様子
出典：https://www.springnews.co.th/photo-story/824875

バンコクからインドの首都ニューデリーへは飛行機で約 4 時間、東京からニューデリーへは約 9 時間。決して近い距離とは言えませんが、インド独自の文化に触れるために一度訪れてみたいと思います。

2022 年 7 月

※別紙に、年内に開催予定のタイ・インドネシア・ベトナムの展示会情報をまとめました。
サポートオフィスでは、現地で開催される展示会へのアテンドも行っております。
関心のある展示会がございましたら、お気軽にご連絡ください。

担当；神谷　靖子　Yasuko　Kamiya
Address　: 1 VASU1 Building, 12 FL., Room 1202/D, Soi Sukhumvit 25, Sukhumvit Rd., Klongtoey-Nua, Wattana, Bangkok 10110
Tel　: +66-(0)-2-261-1058
Mobile　: +66-(0)-89-200-7763
Mail　: shimane-bizsup@aapth.com

2022 年 7 月

➢ タイ経済指標

項目	単位	2019	2020	2021	2022
GDP 成長率	前年比（%）	2.4	−6.2	1.8	2.2 （1～3 月）
人口*	千人	68,021	68,152	68,161（1 月）	68,161 （21 年 1 月）
労働者の数*	千人	38,207	39,451	38,631	39,618 （3 月）
失業率**	%	0.99	1.62	1.94	1.53 （1～3 月）
最低賃金*　バンコク	バーツ／日	325	331	331	331
チョンブリー		330	336	336	336
アユタヤー		320	325	325	325
ラヨーン		330	335	335	335
賃金：全国製造業の平均	バーツ	13,131	13,562	13,506	14,356 （1～3 月）
インフレ率**	前年比（%）	0.71	−0.84	1.24	5.2 （5 月）
中央銀行政策金利*	%	1.25	0.50	0.50	0.50（6 月）
普通貯金率**	%	0.47	0.31	0.25	0.25 （6 月）
ローン金利(MLR) **	%	6.29	5.60	5.42	5.42 （6 月）
SET 指数*	1975 年：100	1,579.84	1,449.35	1,657.62	1,568.33 （6 月）
バーツ／100 円**	バーツ	28.48	29.33	29.15	27.51 （6 月）
バーツ／米ドル**	バーツ	31.05	31.29	31.98	33.72 （6 月）
円／米ドル**	円	109	106.8	109.8	122.87 （6 月）
車販売台数（1 月からの累計）	台数	1,019,602	779,857	736,716	377,037（5 月）
BOI 認可プロジェクト	件数	1,500	1,501	1,572	327 （22 年 3 月）
BOI 認可プロジェクト金額	10 億バーツ	447.36	361.41	511.9	88.72 （22 年 3 月）

*期末、**平均